

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【169】
2. 日時：令和4年5月12日 10時00分～12時10分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

義崎管理官補佐、植木主任安全審査官※、大野主任安全審査官、岩崎安全審査官、服部安全審査専門職、伊藤原子力規制専門員

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理）他11名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 設備設計グループ 主任 他1名※

電源開発株式会社

原子力技術部 設備技術室 担当※

5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、ブローアウトパネル関連設備の設計方針について、令和4年5月9日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【ブローアウトパネル関連設備の設計方針】

- MS トンネル室 BOP に閉止装置を設置しない考え方を説明すること。
- 波及的影響に係る構造強度設計上の性能目標が、オペフロ BOP 及び MS トンネル室 BOP については設定され、BOP 閉止装置については設定されていないことについて、これら施設の位置付け（クラス）も踏まえた考え方を説明すること。

【工事計画に係る補足説明資料（安全設備及び重大事故対処設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書）】

- MS トンネル室 BOP のバウンダリ機能について、地震に対する設計の考え方を説明すること。
- オペフロ BOP のパッキンについて、ブローアウトパネル開放時に抵抗にならないことを説明すること。
- オペフロ BOP の開放機能を担保する設計条件について、クリップ抗力

及び摩擦による抗力の算出方法を説明すること。

- MS トンネル室 BOP の耐震性能試験における 1 次固有周期の測定値について、試験体ごとのばらつきの理由を説明すること。
- MS トンネル室 BOP に係る地震に対する設計の考え方について、先行プラントとの差異を踏まえて説明すること。
- BOP 閉止装置の加振後の気密性能試験方法について、試験体への加圧方向等に対する試験結果への影響の考え方を説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

なし